

認知症の方と向き合うために ～ユマニチュード～

認知症ケア

当院では、認知症の入院患者さんが、常に2割程いらっしゃいます。認知症の方は、入院という環境の変化の適用に時間がかかります。入院中、徘徊されたり、同じ時間帯になると帰宅願望が強くなったり、また、帰宅できない事で怒り出したりと「周辺症状(BPSD)」と呼ばれる症状が出ます。戸惑いはだんだん深まってきました。

そこで、認知症ケアとして「ユマニチュード」という技法を知り、病棟を中心に、学習会を続けてきました。150余の中から、その人に合う技法を使う事で、次第にその人の心がつかめ、効果を実感しています。話をしても伝わらない、など誤った解釈のもとで接することは大きな間違いであり、逆効果です。また、人権をも侵害しています。入浴を拒んでいる時は、無理強いをしない等、強制ケアをしない事も大切です。認知症の方と接する上で最も大切な事は「人と人の関わりである」と思います。

まだまだ勉強中☆

ユマニチュードとは？

知覚・感情・言語に基づいたケアの技法で、その数は150を超えます！

<例>

帰宅願望の強い人がいる場合、「帰れませんよ。」などという対応は逆効果です。「いつ帰れますかね。」「どうやって帰れますかね。」等、帰宅願望を認めながら、一緒に歩き、会話をします。その流れで、他の話題を引出し、家に帰ることを忘れてもらうのです。そうすると他の周辺症状(BPSD)も落ち着いてきます。

このようにユマニチュードの技法を取り入れての対応方法はたくさんあります。

認知症の方をサポートできるスタッフを育成中！

看護師や介護職員だけでなく、全職員が認知症の方をより理解するため、「認知症サポーター養成講座」を開き学習しています。受講するとオレンジリングがもらえます。持っている職員は、職員証につけています。

現在、50%の職員が受講済みです。全職員の受講を目指しています。

一人でも多く、理解あるサポーターを増やしていきます！

事務職員対象の講座終了後にパチリ

